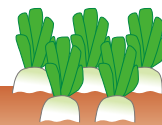
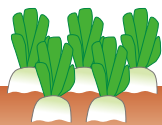


8 根張りをよくする堆肥施用

表面・表層と全層の使い分け

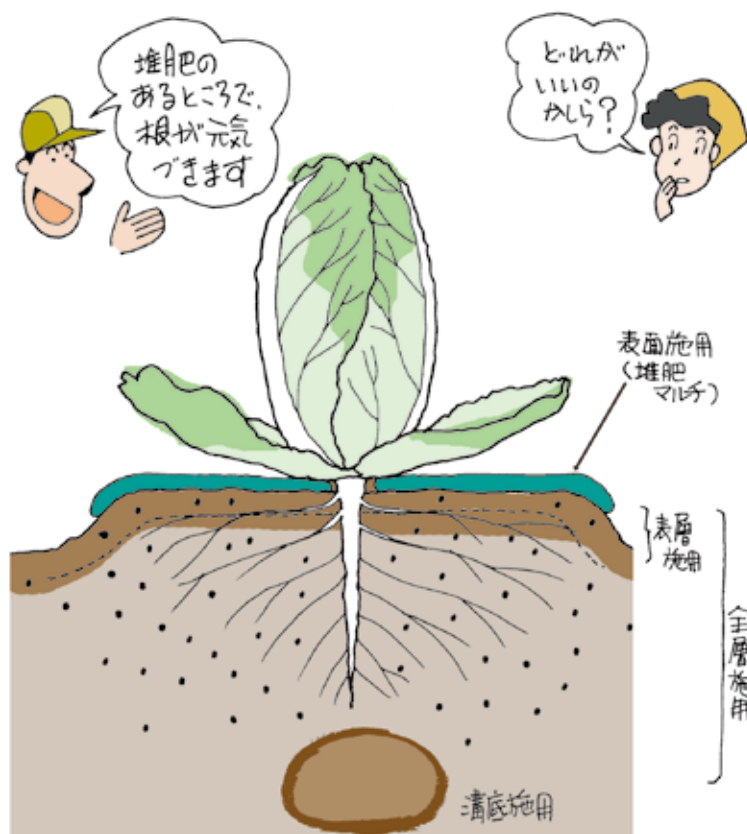


堆肥の施し方には、土全体に混ぜ込む全層施用、土表面をおおう表面施用（堆肥マルチ）、表土数cmに混ぜ込む表層施用、畝底に切った溝に施す溝底施用があります。一般には、全層施用が行なわれていますが、溝底施用は下層の通気性を改善して、根を深く張らせる効果があり、表面施用では株ぎわの細根・根毛を発達させる効果があります。

●根の伸び方、細根の出方と収量・品質の違い

次頁下の表は、ハクサイで全層施用と表面施用を比較試験したものです（協力：（有）農業生産法人茨城白菜栽培組合）。どちらも鶏糞バーク堆肥を10a当たり1.25t、肥料は有機化成肥料を中心に施しています。表面施用区が、ハクサイの収量、および糖度・ビタミンC含有量のいずれもよく、食品の安全面から軽減が求められる硝酸イオン濃度は低くなっています。その理由として考えられるのが、根の張り方、活力です。

次頁上の写真は、左からA堆肥・肥料とも表層施用区、B堆肥表層・肥料全層施用区、C堆肥・肥料とも全層施用区の根を洗い出したものです。細根の量は、左2つの堆肥表層施用区が多くなっていますが、肥料も表層施用すると（A区）細根は表層にかたよりがちです。次頁下の写真は、B区とC区の土中の根を見たものです。B区は堆肥のある表層部で、根がふえて下層へと力強く伸びていき、同時に細根・根毛が全層にわたってたくさん発生して、土の粒子をよくつかんでいるのがわかります。C区は細根・根毛が少なめです。細根・根毛が多いと、窒素だけで



堆肥の施し方のいろいろ